

■適用雑草と使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール当り使用量		本剤及び トリアジフラムを含む 農薬の総使用回数※	使用方法
			薬量	希釈水量		
日本芝	一年生雑草	芝生育期 (雑草発生前 但し、 秋期スズメノカタビラは 3葉期まで)	75～ 150 ml	200～ 300 l	2回以内	全面土壌 散布

※印は収穫物への残留回避のため本剤及びその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

⚠ 効果・薬害等の注意

- 使用直前に容器をよく振ってください。
- 発芽後の生育が進んだ雑草に対しては効果が劣るので、雑草の発生前（秋期スズメノカタビラは3葉期まで）に時期を失わないように散布してください。
- 洋芝に使用すると薬害を生じる恐れがあるので、使用しないでください。
- 芝張後一年以内の芝、ターフ形成の不十分な芝、または老朽化した芝で根付きのよくないところでは薬害の生じる恐れがあるので使用しないでください。
- 土壌が極度に乾燥している場合には、事前に散水するか、または散布水量を多めにしてください。
- 周辺の植物にかかると薬害を生じるので、散布の際は芝生の中や付近にある草花、花木、畑作物に薬液がかからないように散布してください。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時間、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病虫害防除所等関係機関の指導を受けてください。

⚠ 安全使用上の注意

- 目に入らないように注意してください。眼に入った場合は直ちに水洗してください。（弱い刺激性）
- 使用量に合わせ薬液を調製し、使い切ってください。
- 移送取扱いは、ていねいに行ってください。
- 漏出時は、保護具を着用し布・砂等に吸収させ回収してください。
- 魚毒性・・・使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使い切ってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないように適切に処理してください。
- 保管・・・直射日光を避け、食品と区別して、なるべく低温な場所に密栓して保管してください。

●使用前にラベルをよく読んでください。●ラベル記載以外には使用しないでください。●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。●使用後の空ボトルは園場などに放置せず、3回以上水洗し、適切に処理してください。●洗浄水はタンクに入れてください。

日産化学工業株式会社

東京都千代田区神田錦町3-7-1 TEL (03) 3296-8021

株式会社ニチノ緑化

東京都中央区日本橋小伝馬町14-4 TEL (03) 3808-2281

出光興産株式会社 アグリバイオ事業部

東京都墨田区横網1-6-1 TEL (03) 3829-1465

■取扱店

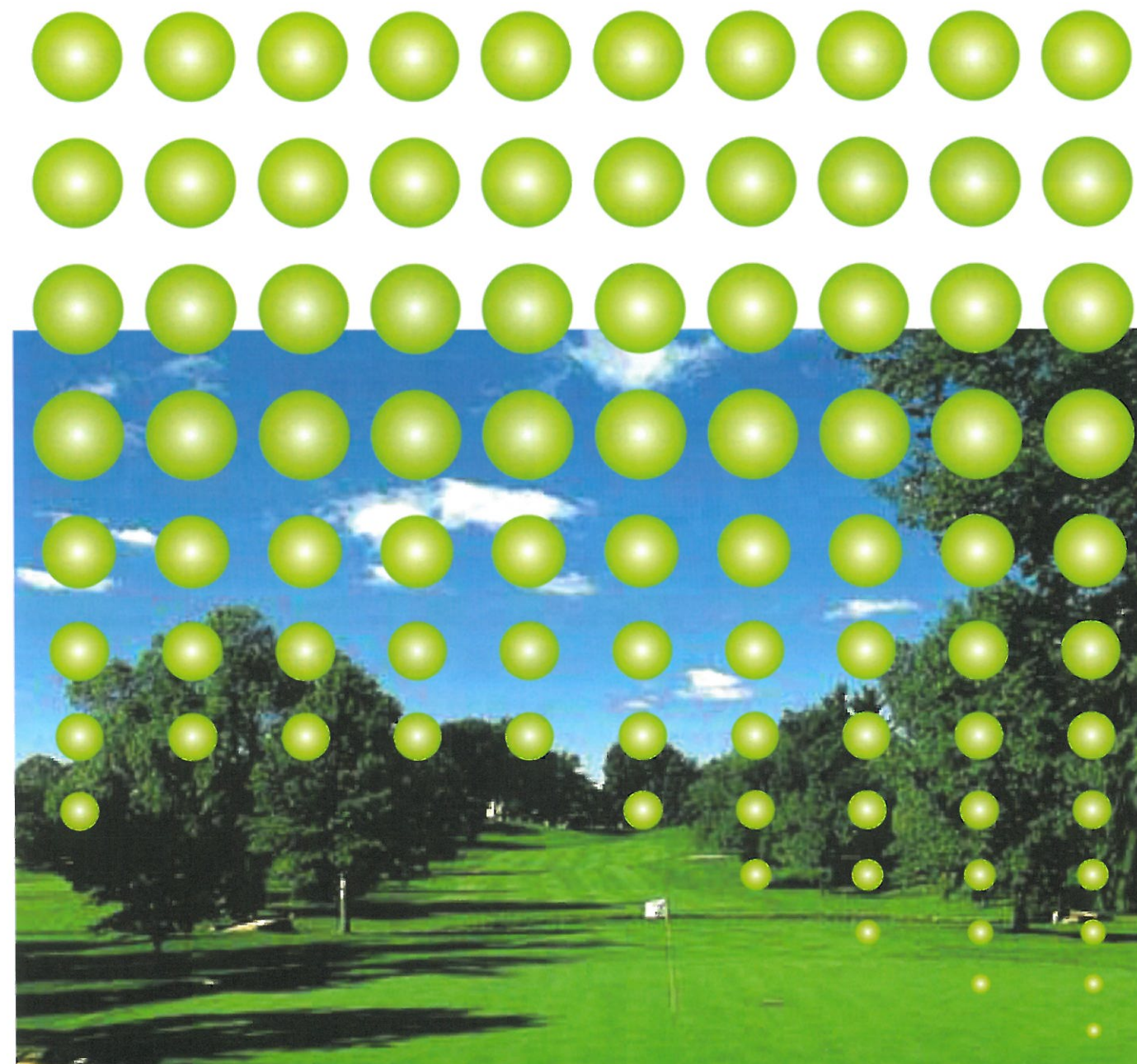
芝生用除草剤

農林水産省登録
第19758号

一年生雑草への優れた除草効果



イネ科のみならず、多くの広葉雑草に対しても有効。
ヤハズソウに対しては極めて高い効果を発揮！



イネ科のみならず、多くの広葉雑草に対しても有効。
特にヤハズソウへは極めて高い効果を発揮。

■特 長

1.広範囲の一年生雑草に有効

メヒシバ、アキメヒシバ、スズメノカタビラ等の一年生イネ科雑草はもちろんのこと、春夏雑草のヤハズソウ、コニシキソウ等、秋冬雑草のスミレ、タチイヌノフグリ等、多くの一年生広葉雑草に対し優れた除草効果を発揮します。

2.ヤハズソウへの優れた除草効果

施肥量の削減によりラフを中心に増加しているヤハズソウに対し、極めて高い除草効果を発揮します。また、社内試験では、発生初期～生育期でも有効な結果が得られています。

3.長い残効性

安定した処理層を形成し、春散布で90日前後、秋散布で120日前後の長い残効性を発揮します。

4.日本芝への高い安全性

コウライシバ、ノシバ等の日本芝に対しては、高い安全性が確認されています。



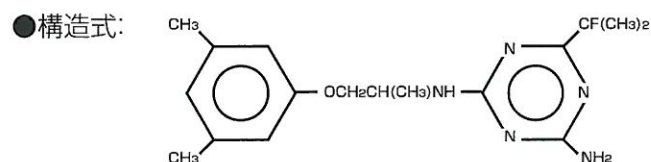
イデトップ 0.1mℓ/m² 散布
(3月下旬散布、90日後)

■作用機作

- 雑草の発芽時に幼芽部、根部から吸収され、除草効果を発揮します。細胞壁の生合成阻害が主作用と考えられます。

■成分・性状・物理化学的性質

- 種 類:トリアジフラム水和剤
- 成 分:トリアジフラム 30.0%
- 化学式:(RS)-N-[2-(3,5-ジメチルフェノキシ)-1-メチルエチル]-6-(1-フルオロ-1-メチルエチル)-1,3,5-トリアジン-2,4-ジアミン



- 剤 型:フロアブル剤
- 水溶解度:7.14mg/l(20℃)
- 性 状:類白色水和性粘稠懸濁液体

■人畜・環境への安全性

●人畜毒性:普通物

急性経口毒性 (LD ₅₀)	ラット	5,000mg/kg以上
	マウス	5,000mg/kg以上
急性経皮毒性 (LD ₅₀)	ラット	2,000mg/kg以上
皮膚刺激性		刺激性なし
皮膚感作性		感作性なし
眼刺激性		弱い刺激性(原体)

●魚毒性

コイ (TLm48時間)	11.2ppm
ミジンコ (TLm3時間)	100ppm以上

■有用動物に対する影響

- 有用動物(ミツバチ、カイコ)や鳥類(コリンウズラ)に対する影響はありません。

■使用上のポイント

1.雑草の発生前の散布が効果的です

春処理では0.08~0.1 mℓ/m²、ヤハズソウが多発している場合は0.1mℓ/m²で散布してください。
秋処理では0.1mℓ/m²で散布してください。また、スズメノカタビラが多発する場所では、散布時期は10月以降とし、茎葉処理剤と組み合わせて散布してください。

2.散布水量は多めの方が効果は安定します

散布水量は200 mℓ/m²以上として、均一に散布してください。

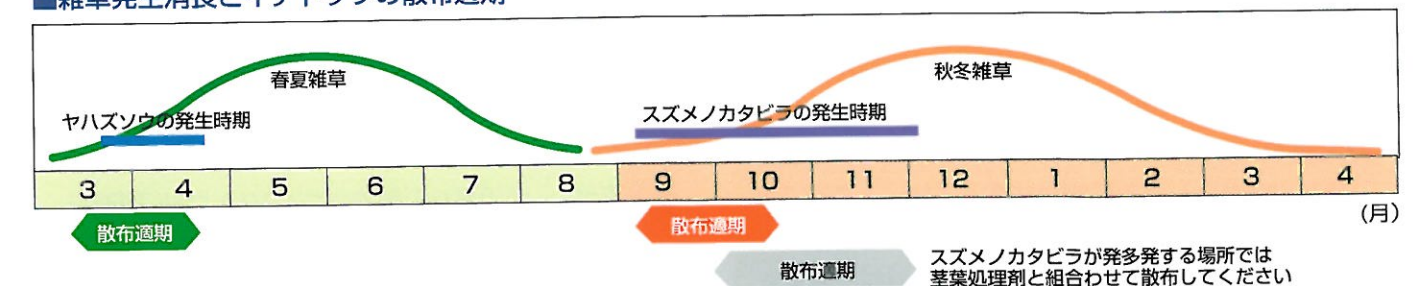
3.張り芝直後には散布しないでください

張り芝直後は、芝のタフ形成を抑制するなどの薬害を生じることがありますので、使用しないでください。

4.グリーンには散布液が直接かからないようにしてください

踏み込みやドリフトによる薬害の心配はありませんが、ベントグリーンまわりは2~3m離して散布してください。
降雨による流れ込みの危険性がある、のり面には散布しないでください。

■雑草発消長とイデトップの散布適期



■雑草スペクトラム

雑 草 名		雑草発生前処理 薬量0.1mℓ/m ²	雑草発生初期処理 薬量0.1 mℓ/m ²	雑 草 名		雑草発生前処理 薬量0.1mℓ/m ²	雑草発生初期処理 薬量0.1 mℓ/m ²
イネ科	メヒシバ	●	●	ナデシコ科	オランダミミナグサ	●	●
	アキメヒシバ	●	●		ツメクサ	●	○
	エノコログサ	●	●		ハコベ	●	○
	スズメノカタビラ	●	●	スベリヒユ科	スベリヒユ	●	○
トウダイグサ科	コニシキソウ	●	●	アブラナ科	ナズナ	●	●
マメ科	ヤハズソウ	●	●	キク科	オオアレチノギク	●	○~△
	カラスノエンドウ	●	●		ハルジオン	●	○~△
	クローバー	○	○		ノボロギク	●	○~△
ゴマノハグサ科	タチイヌノフグリ	●	●	カヤツリグサ科	ハマスゲ	×	×
	オオイヌノフグリ	●	●		ヒメグサ	×	×

日植調委託試験・社内試験より作成 ●:極大 ○:大 △:中 ×:無

